

06/07・米景気に「新たな疑問」イエレンFRB議長が月内利上げ見送り示唆 < 1 >

- 6日講演で雇用悪化に「失望」 利上げ時期特定せず
- 英EU離脱問題・米大統領選、雇用以外にも懸案 米利上げ難路続く
- 市場は「9月以降」を本命視 NY株価は1カ月ぶり高値
- ・独、再生可能エネルギー比率30%超す 脱原発決定5年、転換進む
原発比率は22%から14%に 風力発電は輸出攻勢 廃炉費用負担が課題

06/08・三菱UFJ銀「国債離れ」 入札の特別資格返上へ < 2 >

- マイナス金利で損失懸念 日銀依存一段と 追加緩和観測後退
- ・米中戦略・経済対話（北京7日）南シナ海・人権物別れ
米金融機関による元建て証券4兆円投資枠は合意
- ・日本経常黒字41%増 4月1.8兆円、9年ぶり高水準 原油安寄与
輸出額10.4%減も輸入額23.1%減で貿易黒字約7000億円に

06/09・韓国1年ぶり利下げ 過去最低の1.25%に 輸出・内需不振で

- ・日本4月機械受注11%減 円高・海外減速で投資先送りの動き
- ・NY原油続伸、51ドル台 ダウは1万8000ドル回復

06/10・日本、長期金利（新発10年物国債利回り）過去最低のマイナス0.155% < 3 >

- 英のEU離脱警戒 ユーロ安加速 米利上げ観測後退 海外の金利低下波及
- ・日本企業物価5月4.2%下落 6年5カ月ぶりの下落幅 < 4 >

06/11・長期金利世界で低下 マイナス金利国債10兆ドル 全体の半分、日本は8割

- 成長期待しぼむ 投資意欲低く、緩和頼み回らぬ歯車
- あふれるマネーがリスク資産に流入 原油や不動産も影響 < 5 >
- ・米長期金利、一時1.62% 英EU離脱警戒高まる 4カ月ぶり水準に低下
- ・日本生保協会会長が日銀緩和策の副作用に言及 将来の金利変動懸念
- ・欧州委員会副委員長が日本追加緩和の効果薄いと異例の言及
- ・独財務相 英EU離脱の経済的打撃警告

06/12・物価低迷 悩む日銀 < 6 >

- 15~16日に政策決定会合 追加緩和には慎重論
- ・パナソニック 中国でEV（電気自動車）基幹部品
大手北京汽車と合弁生産 中国政府環境対策で補助金 エコカー最大市場開拓

<1>

イエレン議長の発言のポイント

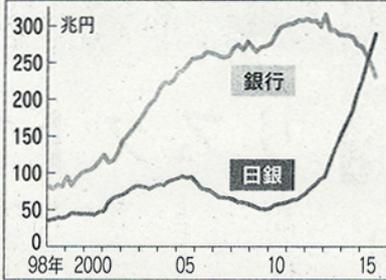
- 「利上げは緩やかに進める必要がある」
- 今後数カ月内に、との前回講演の表現は取り下げ
- 「雇用統計には失望している。景気見通しに新たな疑問が生じた」
- 「英国のEU離脱問題は経済に重大な影響を与える可能性がある」
- 月内の利上げ見送りを示唆
- 「労働環境は全体的には前向き。単月の指標を重要視しすぎるべきではない」
- 指標が改善すれば利上げ模索へ

<4>

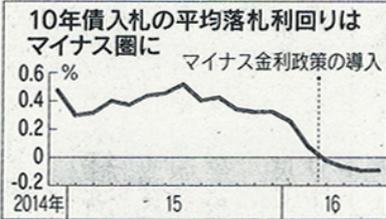


<2>

国債保有の主役は銀行から日銀に

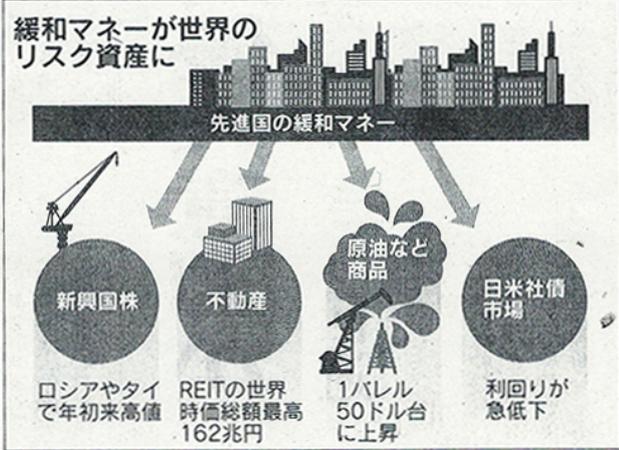


(注)日銀資金循環統計、銀行はゆうちょ銀行(07年末までは郵便貯金)を含む

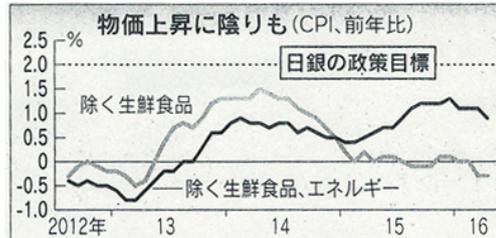


▼国債市場特別参加者(プライマリー・ディール)は、財務省が2004年10月に導入した特別資格。国債の入札で発行予定額の4%以上の応募を求められ、落札額でも一定割合の義務が生じる。一方、財務省と意見交換ができるなどのメリットがある。資格がなくなると入札には参加できる。

<5>



<6>



追加緩和のハードルは高く

残された選択肢	緩和の障害
① マイナス金利を深掘り	銀行が反発、家計にも戸惑い
② 国債購入量を拡大	市場から消える国債
③ ETF購入量を拡大	露骨な株価対策との批判

<3>

